

# 兵庫県立はりま姫路総合医療センター

神戸大学 2020年卒 救急科専攻医 加藤ちはる

Q.はりま姫路総合医療センターとは？

旧兵庫県立姫路循環器病センターおよび旧製鉄記念広畑病院が統合再編され2022年5月に開業。33診療科をもち、病床数736床と兵庫県下でも最大規模の病床数を誇る。医療圏は西播磨全域・80万人をカバーしている。

Q.はりひめの救命救急センターの特徴

80万の医療圏で唯一の救命救急センターであり、医療過疎地である西播磨圏域、救急医療最後の砦となっている。

救急車台数は年間約6000件であり、救急科と各診療科が連携し二次、三次の救急医療を展開。

初期対応をより早くするため、救急、循環器および脳卒中ホットラインに分かれて救急隊から連絡が来るようになっており、必要時連携を取るシステムとしている。

循環器であれば急性心筋梗塞、致死性不整脈、重症心不全をはじめとした重症心疾患など脳卒中であればSAH、脳出血、脳梗塞など

救急であれば上記以外の多岐にわたる疾患を経験することができる

Q.当院救急科の役割

救急科は大きく3つの役割があり、初療、集中管理、プレホスピタルに分類されている。

上記で説明した初療に加えEmergency ICUとして術後含めた集中治療を実施。

準基地病院としてDr.Heliの運行が週2回、今年度からはDr.carも開始予定。

Q.はりひめにおける地域との繋がり

市民講座の開催、地域ラジオへの出演、こどもメディカルラリーの開催など。

開院後病院をあげて地域活動を行なっている。

Q.派遣病院における兵庫県養成医としての役割

(初期研修医派遣として)

今後地域病院に派遣された際により高度かつ救命につながる医療を提供するために学習する機会がある

地域病院での勤務経験を生かし地域に根ざした患者に寄り添う医師としての関わり方を提供することができる

前期派遣として)

西播磨圏域の医療過疎を自覚すること

メディアの題材になりやすい専門性であることを利用し、学生や子供達に医療に興味を持つきっかけを作ること

救急医不足に対して、メディアを利用したリクルートを行うこと

救急医の立場から地域に根ざした活動に参加すること

院内および院外での広報活動を積極的に行うこと(院内広報誌の作成、SNS など)

